

【12月】お米配布家庭数：2,386家庭 お米配布人数：3,567名

- ①お米の協賛は本当に助かります。週に3回営業していますのでお米は相当使います。
11月開始以降口コミが広がり、徐々に人数が増えて毎回20名～30名が利用してくれます。
まだ、外国の方の来場はありませんが、団地が近いこともあり、来年、外国人の方が来場するようになったらという懸念もありますが、スタッフ一同大変な中奮闘し、頑張って継続していきます。
食べ盛りの子供たちばかりで、お米のご支援は大変ありがたいです。
- ②今回でひとり親家庭等の食品支援事業も最後になりました。毎回皆さんがとても喜んでくれることがスタッフの励みとなっています。
ひとり親家庭だけに限らず、様々な理由で生活が厳しくなっているご家庭は多く、申込は先着順のため、必ず毎月同じご家庭にお渡しできているわけではありませんが、会場にお子さんと一緒にいらっしやると、お子さんがすくすくと成長している姿を見ることができてうれしいです。
- ③今月はクリスマス会を兼ねて開催しました。地域の民生委員の方も見学に来られました。賑やかに子ども達が楽しく参加している姿を見て感心していました。
最近は、地域の高齢者の方も参加されるようになりました。
- ④先月中頃に、本当に困窮している家庭を1家族知りました。普段は、予約制でいつもお弁当・食品パントリーを行っているのですが、この家庭には直接お米・惣菜・食品パントリーをお待ちしました。とても喜んでおり、何度もお礼を言っていました。届けることができて良かったです。まだまだ潜在的に困窮家庭があると思います。少しでも力になればと感じます。
- ⑤2025年最後のフードパントリーを12月12日(金)に開催しました。
他にお米、防災食などご支援品がたくさんありましたので、それと合わせて渡しました。
今回のお米は、1家庭につき5kg。クリスマス、年末、冬休みと物入りなので渡すことができて良かったです。受け取った方は「お米は本当に助かります」や「子供に食べるなどとは言えないから、お米は本当に欲しかった！ありがとうございます」と喜んでもらえました。年末年始きちんと食べられるくらいの防災食なども数多くお渡しできました。
今回もご支援いただきありがとうございます。
- ⑥いつも温かいご支援をいただき、ありがとうございます。心より感謝申し上げます。
ご提供いただいたお米は、子どもの居場所拠点におけるおむすびの配布のために大切に活用させていただいております。
お腹を空かせた子どもたちのお腹が満たされることはもちろん、一緒におむすびを握りながら会話をしている時間が、子どもたちの家庭状況や困りごとに気づくきっかけとなり、コミュニケーションの場にもなっています。いつもありがとうございます。
- ⑦今回はクリスマス会ということで、90名近くの申し込みがありました。しかし会場に入る事ができないため、順番にお断りしています。ただ、少し心配な5つの家庭の方は毎回来ていただいています。
そのうちの1家族の次男は、就職に向けて活動を開始しています。働くようになったら、少し家族

も楽になると思います。

シングルで2人の子どもを育てていて、仕事を解雇され、実家基金で修学旅行に行けた子どもも元気にやってきました。お母さんは就職活動を始めていて、上手くいきそうですと喜んで話していました。

沢山のお米や海苔がいただけたので、6升の米を3回に分けてガス釜で炊き、おにぎりを作りました。海苔が高い時に沢山いただけたので、本当にありがたかったです。今年1年本当にお世話になりました。

また、来年もよろしくお願い致します。

⑧いつもご尽力いただきありがとうございます。

12月6日のこども食堂時にオムライスを作り、白米を使用しました。

12月24日のクリスマスケーキ配布時には貧困家庭にお米を配布する予定です。また、12月26日の学習支援時はカレー時に白米とお惣菜を使用します。

⑨お米は相変わらず喜ばれます。期限が短くても、みなさん気になさらず喜んで持って帰ってくれます。このまま廃棄されるはずだった商品も、喜んでくれる方のもとへ届いて良かったです。

⑩お米は全てフードパントリーとして、子ども食堂の利用者に配布しました。

1キロずつに小分けし、子ども食堂から帰るときに、お土産にしました。

思いがけないプレゼントにとても喜んでもらえました。

⑪毎月子ども食堂の終わりに、来月に作って食べたい物は何かを聞いており、今回のメニューはその要望に応えています。多くの子ども達はとても慣れた手つきで料理をこなしていき、児童養護施設の入所児童なので高校卒業時には施設を出なくてはなりません、その際の料理面での自立化促進支援に寄与していると自負しています。

何より一緒に料理を作って一緒に食べることは、お互いの距離感を縮めることに繋がり、親しみを感じながら毎回子ども達と接することができています。また、ボランティアメンバーを幅広く募ることによって、世代を越えた交流を図ることができています。

具体的には、高校生・大学生と言った若い世代から社会人や年配の方まで、子ども食堂にお手伝いとして参加してもらっています。

毎月支援をいただけることに深く感謝して、地域や子どもの為に活動を続けてまいります。

⑫12月でクリスマスも近いこともあり、こどもにはお菓子とノートなどをプレゼントしました。

あいにくの雨でいつも行っているモルックができず残念でしたが、室内でプラパン遊びをみんなでした。子どもから大人まで夢中でした！

ご飯は鳥の照り焼き丼を作りました。大好評でした！

いつも頂いているお米を炊く予定でしたが、地元の高校から、バザーで得たお金を使って子ども食堂のお米を支援していただくことができたため、今回はパントリーでお米を小分けして配ることもできました。いつもありがとうございます！

⑬1年間お米の継続的ご寄付ありがとうございます。

今月は、ひとり親家庭が5家族に2キロ、子育て中のご家庭に1キロずつ渡しました。今回、お米は小分けさせて頂きました。皆さん、本当に喜んでおられました。大人2人、子ども3人の家庭は一回の炊飯が5合となり、1回分がとてもありがたいです。

ひとり親家庭の親御さんは、お子さんが小学校にあがってから食が大きくなり、継続して頂けることがとても助かりますと教えてくれました。

毎回、私たちは活動時に6升ほど炊飯します。大人も子どもも同じご飯量でお弁当に詰めて提供しております。みんなの喜ぶ顔を想像すると、こちらとても幸せになります。

全ての食材や消耗品等の高騰で、個人で活動している当方ではとても皆さんにお米を渡す余力はない為、継続して下さり本当に感謝いたします。

今月はシンガーソングライターの方をお迎えしてコンサート、そして南陽ニコニコ食堂に支援してくださる方にご協賛いただいた品物で大抽選会も行いました。
皆様のおかげで、この一年も活動継続することができました！
また来年も宜しくお願い致します。

- ⑭今月お惣菜は、12月23日に社会福祉協議会が主催のひとり親家庭フードパントリーにて各家庭に渡しました。
お米、冷やし中華、カレー、のり等は15日から22日にひとり親家庭に配達しました。クリスマス、年末年始、冬休みで出費も多く助かりますとお話もありました。
毎年クリスマスには、子供達に少しですがお菓子も一緒に渡しているので楽しみにしてくれていました。
とても印象に残ったのは、23日のパントリーに参加された方が帰り際に泣きながらお礼を言っていたことです。私も気になり次の支援につなげようとお声をかけました。「今年が18歳で最後のパントリーなんです、今まで支援していただいて本当に嬉しくて。職場では旦那がいなくて楽でいいよね、補助があるからいいよね、と心無い言葉をかけられる中で本当に皆さんに救われました。今も話を聞いてくれてありがとうございます」と、本当に今まで頑張ってきた彼女に私も一緒に泣いてしまいました。
今月もお子さんやお母さんにクリスマスプレゼントとして沢山の食材など渡すことができ、子供達の笑顔も沢山いただきました。
- ⑮10月で1世帯が辞退されていたところ、社会福祉協議会様からのご紹介で、新たに1世帯への支援を12月から開始しました。初めての支援ということで、子ども食堂の開催日に母子（子どもは中学3年生。他にも高校生学年相当のお子さんもおられるようです）で、開催時間前に来所されました。
スタッフと色々話をし、食事をされてから、お米などの支援品をお渡しすることができました。
なお、12月はクリスマス会として、スタッフや参加者による演奏会も開催し、総数54名という大勢の方に参加していただきました。
- ⑯今回は餃子の王将様から支援を頂いて、「餃子の王将こども弁当」を配りながら、フードパントリーも併せて開催する形で行い、12月21日、1月5日の2回開催しました。各回50食準備させてもらい、皆さんにとっても喜んで頂けました。
今まではお米をお配りする際に、支援が必要だろうと思われる家庭に配布していましたが、今回から申し込み制でお困りの家庭はお申込み下さいとお願いしたところ、こちらで把握していないご家庭でもお困りの家庭がいくつもありました。
これからは皆さんに均等に配布出来るように、どちらの家庭にいつどれだけ配布したかを記録して、平等に支援出来るようにしていきます。
いつも貴重なお米をご支援下さり、誠にありがとうございます。
- ⑰ひとり親家庭のお米困窮が少しだけ解消されています。
この度、ひと家庭の成婚が決まり、ひとり親卒業の方が出ました。嬉しいです。いつもありがとうございます。
- ⑱いただいたお米は各家族に配布。また、クリームシチューだったためピラフにして配食しました。
活命茶も各家庭に配布しました。
ジェイケーコーポレーション様からいただいたクリームやプリンなどはセレクトパフェとして、自分でパフェを作って楽しんでもらいました。
- ⑲会食の時も座っているだけでなく、できそうな事をお願いしています。
いつも「ありがとう」を言うばかりでなく、言われる側になった時に自分の存在価値を実感しているのを感じます。

生活困窮者は劣等感を抱えています。他の人との関わりに制限を置いてしまう傾向にあります。物資を支援していくのは当然ですが、彼らのアイデンティティを引き上げていかないといつまでも支援に頼りがちになっていってまです。その結果としてますます自己中心的なものになってしまっているのです、彼らの思考にチャレンジしていきたいです。寄り添いながら、チャレンジを促す関係を大切にしています。



